



いわて医療通信【口の健康と全身の健康とのかかわり】

# 4. 口腔機能低下症とは

歯科界における最近のトピックは、加齢による口腔機能の低下に関して、「口腔機能低下症」が定義されたことです。今回は「口腔機能低下症」についてお伝えします。

でも口腔機能は低下しやすくなります。口腔機能低下の重症化を予防するため、かかりつけ歯科医師を持ち、中年期から継続的に口腔機能の診断と口腔管理の指導を受けることが重要です。

このうち、3項目以上該当する場合に口腔機能低下症と診断されます。次に7つの症状の診断方法を簡単にご説明します。

紙検査を用いて評価。実は、①～④の検査はご自宅でもできます。口腔衛生状態不良の評価は鏡で舌の色を見たとき、白や黄色の範囲が多くなっていたら衛生状態は悪いです。口腔乾燥や歯数はご自分でも判断可能かと思いますが、同じように鏡で確認してみてください。

「口腔機能低下症」とは、前回お伝えした「オーラルフレイル」がさらに進行して「疾患扱いになった状態」です。加齢のみならず口腔機能の低下を引き起こすさまざまな疾患や障害などが影響し、口腔機能が複合的に低下している病態を意味します。高齢者においては、むし歯や歯周病、義歯不適合などの口腔の要因に加え、加齢や全身疾患によ

① 口腔衛生状態不良  
② 口腔乾燥  
③ 咬合力低下  
④ 舌口唇運動機能低下  
⑤ 低舌圧  
⑥ 咀嚼機能低下  
⑦ 嚥下機能低下

① 舌の汚れ(舌苔)の付着程度で評価。  
② 唾液の量で評価。  
③ 咬合圧検査、または残存歯数により評価。  
④ パ、タ、カそれぞれの音を5秒間で、どれだけ多く発音できるか発音回数で評価。

健康状態を維持していくためには「口腔機能低下症」にならないことが大切です。ぜひ、お近くの歯科医院に相談してみてください。口腔機能の定期的な管理をしてくれると思います。

⑦ 嚥下機能低下

⑦ 嚥下スクリーニング質問

定)により評価。

今回は、「摂食嚥下のメ



「カニズム」をお伝えします。

岩手医科大学 歯学部

補綴・インプラント学講座

摂食嚥下口腔

リハビリテーション学分野

小林琢也